

JASIS

NEWS

No. 31

2004/4/20

日本インテリア学会会報

■アジアインテリア学会 (A I D I A) について

1. 概要（開催日時等）のおしらせ

本年10月15日に、国際会議が行なわれます。

期日：2004年10月15日

会場：東京ビッグサイト

内容：6月にはゲストなどが、7月から9月には公募の論文や作品の概要が判明します。当日は、ゲストスピーカーの講演や、採択された論文・作品のプレゼンテーションが行なわれ、論文集・作品集なども刊行されます。

備考：この国際学会は、日本インテリア学会を中心に、インテリアプランナー協会協議会、日本インテリアデザイナー協会、インテリア産業協会など、日本インテリア界の総力を挙げて、取り組んでいます。

連絡照会先：A I D I A 日本大会・実行委員会（委員長：加藤 力／宝塚造形芸術大学・教授）
事務局（東京大学建築学専攻 西出研究室）
(03-5841-6169)

2. プログラム委員会からのお知らせ（論文募集）

委員長 直井英雄（東京理科大学）

この国際学会の論文集「A I D I A JOURNAL」に掲載する論文（英文、6ページ以内、口頭発表はありません）を募集します。未発表論文であることが原則ですが、「日本インテリア学会論文報告集」への既発表論文の英訳でも結構です（論文のなかでその旨断る必要があります）。ふるってご応募ください。なお、日本からは最大6編ということになっておりますので、その条件を守るために、日本インテリア学会論文審査委員会に付

託し、次のように2段階で募集します。

応募をお考えの方は、まず第1段階として、4月30日（金）までにFAX（論文審査委員会宛：東京理科大学直井研究室03-3260-9775）にてエントリーしてください。FAX用紙には、英文題名、英文著者名（所属）、英文要旨（150ワード以内）、および未発表論文・既発表論文の別を記載してください。この段階で6編を超えた場合は、論文審査委員会にて諸条件考慮の上、応募論文を絞らせていただきます。結果は早速お知らせします。

応募いただくことになった方には、執筆要領をお送りしますので、第2段階として未発表論文の場合は6月30日（水）までに、また既発表論文の場合は8月31日（火）までに、レイアウト済み論文を郵送（〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3 東京理科大学工学部第二部建築学科直井研究室気付 論文審査委員会宛）していただきます。未発表論文については、この後2ヶ月以内に、論文審査委員会にて「日本インテリア学会論文報告集」の審査に準ずる審査を行います。

この件について、お問い合わせなどがありましたら、上記FAX番号（電話兼用です）までお願いします。

■日本インテリア学会第16回大会のお知らせ

大会実行委員長 沢田知子（文化女子大学）

日本インテリア学会第16回大会は、東京・新宿の文化女子大学を会場に、2004年10月16日（土）に開催されます。

本年の日本インテリア学会大会は、A I D I A 第3回

東京大会が10月15日（金）に東京ビッグサイトにて開催される流れを受けての大会となります。したがって、例年とは異なり、16日（土）の1日で、「研究の口頭発表、作品のパネル発表」を行う予定であり、あわせて「シンポジウム」を計画中です。また、例年行われている「懇親会」「見学会」については、今のところA I D I Aによる計画に委ねております。

なお、日本インテリア学会大会の当日は土曜日で、大学で通常授業も行われており、なにかとご不便をおかけすることがあるかと思いますが、実行委員会一同で、円滑な大会運営をめざし準備を進めてまいります。

文化女子大学は、新宿駅南口から徒歩数分という交通至便な地にあり、向いには東京ガスのリビングセンターはじめ、関連企業のショールームなども多数あります。大会を機会に、多数の方々にご参集いただき、情報交換や交流の輪が広がりますよう、ご案内申し上げます。

■第15回大会研究発表講評（第2報）

A. 口頭発表部門

□教育環境（1）

デザイン教育の必要性が一般的に認識され出した事は、かつて19世紀末にパリ万博で世界を震撼させた日本人の美意識を取り戻すためにも喜ばしいことです。しかし広く深いデザインの教育、中でも‘空間’を対象とするインテリアデザインの教育方法は難しいテーマです。今回の研究発表が期せずして、幼児から小学生を中心とする低年齢層対象に限られた事は、知育より幼児からの体験による総合的な育成が重要であることを示唆しているといえましょう。

京都女子大学短期大学部助教授片山勢津子氏と鈴木儀雄氏、加藤力氏の2つの発表（032、033）は「私の部屋」の模型制作を課題とするもので、両研究共子供達の取り組み方の観察と授業の前後の意識調査を重ね合わせてその教育効果を測っています。今後広く調査を重ねて結果を把握することで、インテリア教育の方法論を見いだす手立てになろうかと思えます。

今後は模型に自由度を持ち、概念的な窓、家具、什器を与えるのではなく、人の動き、光り、自然等との係わりを話し合う事から始める等も考えられましょう。生活意識を日常から解き放し自由にイメージすることも、柔らかい若年期であればこそ、体験してほしいように思われます。

大阪市立大学大学院教授北浦かおる氏の日本、韓国、イタリー、デンマークでの調査研究による保育空間施設の比較（034）は、幼児の捉え方の違い、保育の概念の違いを如実に表した興味深い研究です。特に日本の保育環境が遊び、食事、排泄、入浴等への直接的な対応策としての空間形成が中心であるのに対して、イタリー、デンマークでは建築の再利用による豊かな空間確保が多く、同時に予算の集約化によって新築の内容の充実を図って入る事等は今後の参考になります。家具遊具、環

境づくりにおいても、大人が押し付ける可愛らしさでなく、ナチュラルな色彩、洗練された形態による感性の育成を促している事も大きな問題提起となりましょう。

かつては日本でも幼児から青少年期まで自然の中で過ごす時間が長かったのが、都市化が進み住宅事情が変わってしまうと、自然により育まれることの重要性をあっさり忘れ去ってしまった事もこの研究から気付かされます。膨大な研究を限られた時間で発表されましたが、別の機会ですっきり研究内容を発表されて、広く社会に問いかけていただきたいと思えます。

東北芸術工科大学の藤原智代・日原もとこ教授チームの紙芝居を子供向け語学教育ツールとした日米での実験（035）では、T.V 登場前に子供達の楽しみの一つであった紙芝居が日本固有のものであった事が再認識できました。今日、日本のアニメーションが広く海外でもてはやされていますが、その源泉に紙芝居があったとも考えられましょう。

こうしたぬくもりのあるローテクで反復可能な語学教材を、物語の選択と表現内容を吟味してゆく中で、定着してゆく可能性も感じられる発表でした。

（座長：山中良子）

□評価

047（湯本）では九州芸術工科大学と社団法人インテリア産業協会との産学連携で実施されたインテリア職能資格水準の具体的評価法の確立を目的とした研究成果が報告された。当該目的の評価上の問題点が多側面から考察、体系的に整理された上で、とくに評価基準に対する評価者の評価強度の違いを主要問題点として取り上げ、実施検証により評価点にはばらつきがあるが順位づけについては安定した傾向にあることを明らかにし、これをベースとする当落決定方法が提案された。より客観的的確な評価方法は職能資格認定のみならず教育の場でも希求されており、本研究の意義は極めて高い。

048（湯本ほか）では、3大学による産学連携研究として実施された福岡天神地下街と、そこに接続して建設される地下鉄入口の設計案との視覚環境移行に関する事前評価法と結果が報告された。九州芸術工科大学での研究実績を踏まえたもので、3大学の学生に現状および設計案の双方の画像データ（16種）を対象として提示し、SD法を用いて評価させている。主成分分析による尺度の絞り込み等の過程を経て得られた3つの因子空間上に16種を位置づけて考察、現況の良好な印象を壊すことなく移行できるものと解釈された。我が国の環境改善のためにはこのような事前評価法の普及が希求される。より具体的な理解のために研究論文としてまとめられることを期待する。

049（湯本ほか）では、九州芸術工科大学と建築技術教育普及センターとの共同研究による建築、インテリアの優れた作品を選定するための評価法の研究結果が報告された。優れた作品を広く知らしめることによる社会的デザインレベルの向上を目指したものである。報告された評価法（質的評価）は、総合評価と選抜を一次、二次、実地評価、最終評価と多段階で繰り返す。この過程

で評価を安定させるべく持ち点配分、順位付け収束等の方法が駆使される。あいまいな質的評価を如何に信頼できるものとするか、この難題への意欲的研究であり、詳細な内容報告が待たれる。なお総合評価とともに、プロフィール評価の方法論と有効性についての検討も期待したい。

(座長：渥美浩章)

□環境（1）

050（湯本ほか）では、高密度建築地域における北面の新たな採光技術に関する産学連携研究成果が報告された。建物北側面にフッ素樹脂膜を用いた半透明膜屋根を設けて太陽光を拡散させ、北側空間の光環境を快適化するもので、人工照明の点灯率を低減する省エネ技術でもある。実現可能性検証のため、実際に膜屋根を設置してのデータ収集、支持構造の力学検証、本技術の適用可能性に関する調査が実施された。昼光の乏しい亜寒帯、過剰な亜熱帯の建築環境改善に有効で、また耐火性と造性に優れることから、さまざまな場面での活用可能性が期待できるとしている。類似技術がないとすれば本技術の価値は極めて高い。実現化を期待したい。

(座長：渥美浩章)

■研究報告ピックアップ

1) レースカーテンが在室感評価に及ぼす影響

(京都女子大学短期大学部 國嶋道子)

建物における開口部、特に窓には、昼光による屋外からの「透過」（採光）や換気の基本的な機能のほか、眺望などの屋内から屋外を「透視」できるという機能がある。しかしそれと同時に、屋外からも「透視」されてしまうため、屋内の情報が外に流出しやすいという危険がある。そのような窓の機能をより調節しやすくするために窓装飾を利用している住宅が多い。

筆者らは、住宅における効果的昼光利用と室内光環境の快適性に関する研究として、これまでに昼間の窓装飾の利用状態に関する調査ならびに室内光環境実態調査を行っている。本研究では、昼間の室内におけるレースカーテンの違いが人の在室感（註）評価にどれほどの影響を及ぼすかを実験的に調べ問題なく在室することができるレースカーテンの指標を示すことを目的とする。

まず、被験者（大学生41名対象）が普段どのような窓環境で生活しているか、またどのような問題解決方法をとっているかを明らかにすることを目的としてアンケート調査を行った。さらに5種のレースカーテン生地を用いて窓幅に対する使用幅の異なるレースカーテンを作成、擬似昼光を設置し屋外風景写真を備えつけた擬似窓にレースカーテンを閉めた実験室内で異なる光環境条件のもとで在室感評価をさせた。そして、各光環境条件・レースカーテン条件と在室感評価との関係を分析・考察した。

その結果、以下のことが明らかになった。1) 窓装飾には、大きく分けて調整機能・遮蔽機能・装飾機能の3つの機能が上げられるが、中でも戸外からの視線を遮断する機能に対する要求が最も高い。窓外の状況が視線を遮断する必要がない場合には、明るさや直射日光、室内空気を調整する機能を求められる。2) 視線が気になるような要素がほとんどないにも関わらず、視線の遮断のためにレースカーテンを閉めたままにしたり、窓装飾を開閉しているともいえる。それは、密接して建物が建っており、戸外からの人の視線を全く気にする必要がないとは言い切れない状態であり、また一人暮らしの場合が多いことも関係している。3) 視線の遮断に対する評価・明るさ・眩しさ・在室感評価についての評価はいずれもレースカーテンの透光率との相関が高い。高照度・中照度下では透光率47%のカーテンが最も在室感評価がよく、低照度では51%の場合であると予測され、昼光照度を50%前後遮断するカーテンが好まれる。4) 普段在室する部屋に視線に対する意識を高める要因が多くある場合、透光率は50%以下であると遮蔽機能は高まり、生地の使用幅を多くすることも有効である。視線に対して敏感になる必要がない場合、透光率は60%前後を目安にすればよく、生地の使用幅は標準より20%程度少なくしても違和感なく在室することができると考えられる。

註) 屋外からの視線に対する感受意識・被害意識や明るさ感などによって総合的に在室できるかどうかを判断する感覚

■運営委員会だより

1) 総務委員会

委員長 上野義雪（千葉工業大学）

昨年度より学会長が小原二郎氏から高橋鷹志会長に交代し、東北芸工大で行われた理事会の席上、高橋会長から学会活動に対する取り組みについてご意見をいただいた。これまでに学会が抱える問題点や改善案など、各理事による積極的な意見交換ができた。その後、理事会の検討事項をもとに、会長補佐会議が開催され、具体的な運営等について検討された結果、新年度からの運営に生かすことになった。一例であるが、学会大会の研究発表梗概集を事前に会員発送するなど、会員へのサービスに向けて誠心誠意努力をすべく、各担当者の努力に心から感謝を申し上げる。多くの問題を抱えている学会ではあるが、会員規模に見合った学会活動の実践を目指し、各支部活動や部会活動、委員会活動等を陰からサポートできるように、総務委員会として努力する所存である。

本年は、A I D I A大会が東京において開催されるが、会員のご意見が学会活動の活性化に重要な役割をもつため、是非ともご意見を賜りたいと考えている。

2) 論文審査委員会

委員長 直井英雄 (東京理科大学)

「インテリア学会論文報告集14号」につきましては、論文審査も終わり、ただいま印刷中ですので、もうすぐ皆様のもとに届くのではないかと思います。本年も3月中に発刊できず、申し訳なく思っております。論文審査の先生方、お忙しいところご協力くださりまして、ありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

なお、本年は、通常の大会論文、論文報告集の論文の募集以外に、アジアインテリア学会 (A I D I A) の論文募集もあります (この案内も本会報に載せてあります)。締め切りも重複しておりますので、ご予約をお考えの上、ふるってご応募ください。

3) 広報委員会

委員長 湯本長伯 (九州大学)

①会報

今年度の最後の予定は、総会前に年報の発行です。

30号から大会発表の座長報告を掲載していますが、大会関係の座長報告は、学会活動にとっても大切なものですから、座長の先生方のご協力に感謝すると共に、会員の皆様におかれても、色々ご意見をお寄せ戴き、より良い形式や内容に近づけて行きたいと思っております。宜しくお申し上げます。

ご意見を戴ける場合は、編集委員会の渡邊あるいは白石までお願い致します

(宛先: 会報 watanabe@bunka.ac.jp、
年報 shiraish@oyama-ct.ac.jp)

②ホームページ

先の会報から繰り返しお知らせしましたように、連絡用・事務用のデータ等を収納した事務ホームページを開設致しております。当面は、主に連絡や会合の情報等の周知に、ご活用下さい。正式なHPの開設については今のところ目処が立っておりませんが、取り敢えず実質的な不便の無いよう致しますし、出来るだけ急いで学会内の調整を致します。

インテリア学会・事務ホームページ 入口URL

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/KID/DRC/InetPub/JASIS/index.html>

事務ホームページのメインURLです。

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/index.html>

上記のミラーサイトです。同じ内容が入っております。

(上記に事故ある時、ご利用下さい。)

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~yumoto/JASIS/index.html>

ご意見を戴ける場合は、編集委員会の湯本/九州大学までお願い致します。

(宛先: yumoto@design.kyushu-u.ac.jp、アドレス変更しています)

③工事標準仕様書・試作版の件

なお現在HPには、構法・計画委員会のマネジメントによる「工事標準仕様書」の試作版が、公示されております。是非ご覧になって、ご意見をお願い申し上げます。

<http://www.kyushu-id.ac.jp/~ymtlab/JASIS/kindex.html>

ご意見を戴ける場合は、編集委員会の湯本/九州大学までお願い致します。

(宛先: yumoto@design.kyushu-u.ac.jp、アドレス変更しています)

④インテリア大系(仮)の企画と出版について

学会内にWGが設置され、少しずつ企画と広報が始まっています。3月22日に関東支部にて公聴会が開催され、基本的な方針が確認されました(詳細5頁)。

主査: 小原 誠 (文化女子大学)、幹事: 栗山正也 (KDアトリエ)

ご意見を戴ける場合は、編集委員会の湯本/九州大学までお願い致します。関係者にお伝え致します。

⑤A I D I Aアジアインテリアデザイン学会・日本大会

10月15日・東京ビッグサイトにて、インテリアプランナー協会協議会・インテリアデザイナー協会などと協力し、IPEC21と会場を同じくして開催されます。広報委員会からも、HPなどを通じ適時ニュースをお知らせして行きますので、どうぞ奮ってご参加下さい。

連休前後に、第一回対外周知を行ないます。

⑥問合せ

広報公聴を担当する広報委員会が、戴いた問合せを整理して各担当に連絡致します。前回にもお知らせした連絡事務所に、何なりとご連絡下さい。

電話: 03-5953-8575 (インテリア学会と教えてください)

FAX: 03-5841-8515 (東京大学建築学専攻内、FAXのみです)

(ご連絡には、差出記名と宛名を忘れずをお願い致します。)

⑦その他

学会内の情報をオープンにして行くための手段としては、やはりメールニュースが最も有効です。多くの学会では今、「受付窓口の集約代行化」と「メールニュース」開設が行われつつあります。「メールニュース」を受け取れない方のためには、FAXによる代替手段が取られており、ニュース発生から数日間での情報共有が可能となっています。そこで来るべきニュース開設の準備のため、機会を見つけて事務局まで「メールアドレス、またはそれに代わるFAX番号」を、お知らせ下さい。宜しくお願い申し上げます。(既に、お知らせ戴いている方は不要です)

連絡先: 総務委員会 (上野委員長) plluenoy@pf.it-chiba.ac.jp

■支部だより

1) 関東支部

支部長 小原誠（文化女子大学）

① 3Dソフト学習会

インテリアに特化した透視図作成専門の「3DインテリアデザイナーPRO2」がメガソフト社から発売されましたが、簡単な入力で照明効果まで表現されるコストパフォーマンスのよいソフトであるという河村容治氏の紹介で、CAD部会の主催で、3月9日に東横学園において学習会が実施されました。東横学園のご厚意で40台のパソコンにソフトが組込まれ、約40人の参加を得て半日の講習で透視図作成を行いました。ソフトには照明器具の配光特性や調光機能などが組み込まれているため、容易に照明効果の検証が可能なので、参加者はこのソフト講習をエンジョイすることができました。今後このような行事が数回実施される予定です。

② インフィルを動産化した SOHO リフォーム見学会

最近スケルトン／インフィル問題への関心が高まっていますが、撤去時に不要になったインフィルは、廃棄対象になってしまいます。このプロジェクトは、インフィル部分を再利用し易いコンポーネントとしてデザインすると共に、IC タグを付して、流通の円滑化を図ろうという東大生産技術研究所の野城智也研究室の実験現場で、東日本橋にある池田ビルの2階を改装した住宅付小事務所です。2月末に撤去されるということで、2月24日に見学会を開きました。インフィルはすべて着脱性のよいディテールの間仕切りや水回りのキュービクルで構成されており、とくに興味を引いたのがフランス製の小型ポンプにより汚水や雑排水を天井経由で排水縦管まで圧送するシステムで、静粛で細いらせん配管だったのが印象的でした。参加者は約20人でした。

③ インテリア学大系刊行研究会

かねて計画・構法部会で、インテリアデザインの業務領域の明確化とインテリア技術向上のために、「インテリア学大系」ともいべき叢書の刊行を企画したいという声がありました。昨年来ワーキング有志で数回の意見交換し、昨年11月の理事会で同意の上、まず「インテリア学概論（仮題）」でスタートし、以下各領域について10巻を超えない程度の叢書を、インテリア学会から刊行しようという方針が纏まりましたが、この件についてまず会員各位のご意見を伺うべく、関東支部会員を対象として、この件に関する協議会を3月22日に文化女子大で開催致しました。渡辺優氏から、かつて同様の企画があったが、熟慮の上断念した経緯があるので慎重に検討を、という意見も文書で頂戴していたので、発刊の意義・方針の確認を行い、建築学とは異なった視点を意識し、まず概論的なものから発刊することを再確認し、書名・シリーズ名も再検討することとして散会しました。残念ながら参加者はワーキングメンバーを含めて8名で

した。

2) 東海支部

支部長 松本直司（名古屋工業大学）

15年度の事業として未報告の9月以降の分を報告します。

① 支部役員会

第2回役員会 平成15年9月13日（金）

第3回役員会 平成15年12月6日（土）

第4回役員会 平成16年3月26日（金）

② 講演会：「中国古典庭園建築の室内配置について」

講師：天津大学建築学院助教授・劉庭風博士

日時：平成15年11月11日（火）15:00～17:00

場所：名古屋工業大学2号館

参加者：22名。

③ 見学会「飛騨・高山のインテリア」

見学先：飛騨産業ショールーム・工場、光記念館、高山祭りミュージアム、

飛騨・世界生活文化センター

期日：平成15年12月6日（土）、7日（日）

参加者：11名

④ その他

名古屋住環境研究会が名古屋市東桜会館において平成15年11月22日に主催した「健康で快適で安全な住まいー住まいと暮らしのクリニック」の後援を行った。

次年度は支部が15周年になるため、5周年、10周年と実施してきた記念事業を、15周年も行うべく現在企画中である。事業としては、海外インテリア視察旅行及び記念パーティの予定である。

■研究部会だより

1) 歴史部会

部会長 内藤 昌（愛知産業大学）

代表幹事 河田克博（名古屋工業大学）

〈講演会〉の報告

平成16年3月6日（土）、名古屋工業大学において、講演会「21世紀のデザインを考える（PART-II）ー庭園と建築、そして自然ー」を、尼崎博正（京都造形芸術大学副学長・教授、日本庭園研究センター所長）先生を講師にお招きし開催した。古来からの重要なデザインテーマである、庭園と建築、自然とのかかわりを、飛鳥時代以来の伝統的庭園から近代庭園に至る庭園デザインの歴史的展開のなかで、豊富なスライドにより講演された。今後私たちが直面するであろう現代建築と庭園の良質なデザイン関係を考察するうえでも、貴重な刺激となっ

た。参加者は、建築家・インテリアデザイナー・学生など約50名であったが、会場から活発な質問もあり、余韻の残る好評な講演会であった。

2) 人間工学部会

部会長 白石光昭 (小山工業高等専門学校)

今年度は、2003年11月29日(土)に「空間の中の見えないルール」と題した第1回研究会を、千葉工業大学にて開催した。人間の空間把握について、基礎的な研究やいくつかの研究事例を発表していただき、今後の建築内部空間について討議を行った。当日の報告内容は次のようである。東京大学西出和彦先生からは知覚や空間心理を中心に既空間関連研究について概要を紹介していただき、インテリアにおける当部会の今後の考慮すべき方向についても有効なご示唆をいただいた。平安女学院大学橋本雅好先生からは臥位における空間把握特性が立位や机座位とは異なることを実験で検証し、その結果から臥位による時間が長い病室の見直しが必要であることをご紹介いただいた。小山工業高等専門学校高橋大輔先生からは東京電機大学における空間の雰囲気研究やイメージの研究を概要を紹介していただき、それらの研究の成果としてご自身関わられていた空間把握のツールであるパズルマップ法をご紹介いただいた。これらの報告の後も短い時間であったが、質疑等を行い、有意義な時間をすごせたものと思う。なお、参加者は30名であった(会員約15名、学生約15名)。

また、第2回研究会は、3月25日(木)に岡村製作所追浜工場、日産自動車追浜工場の見学を実施し、16名の参加を得た(急用のため3名欠席)。岡村製作所では工場内施設と椅子の品質検査試験機等を紹介していただき、日産自動車では同様に工場見学をさせていただき、その後モダンデザインを標榜するインテリアについて、コンセプト段階からのご説明やシートにおける人間工学の取り組み紹介いただいた。両社において質疑応答の時間をとっていただいたが、質問がとぎれることなく、有意義な見学会であったことが伺える。なお、この場を借りて参加していただいた方々、そして両社に再度御礼を申し上げておきたい。

3) CAD部会

部会長 川島平七郎 (東横学園短期大学)

CAD部会では関東支部と共催で3回連続の研究会をスタートしました。第1回の参加者は35名で、普段あまり学会活動に参加しない人も多く見られました。概要を報告しますので、ご意見や今後の活動へのご要望等があれば、お知らせ頂きたい。

第1回「インテリアCADの現状をリサーチする」

日時：3月9日(火)14時～16時30分

会場：東横学園女子短期大学(世田谷区・等々力)

企画：長谷川隆之・見城美子・小林輝暉

インテリアCAD研究会(会長:長谷川隆之)が平成14年度より実施している「インテリアCAD資格」の現状と問題点に関する報告が、推進役で当学会CAD部会の岡田悟よりあった。「就職には必要」、「大変良い企画である」等の感想が寄せられた。

②「3DインテリアデザイナーPRO」の機能検証

床・壁・天井や家具・照明等を比較的簡単な操作でレイアウトしたインテリア空間をレンダリングできるこのCADソフトについて、当学会CAD部会の河村容治氏の指導(メガソフト社協力)により実際に操作しながら、機能の検証をすることができた。特に採光と照明の効果判定には、優れた機能を持つことが確認された。「分かりやすい」、「大変勉強になった」、「次回も参加したい」、「定期的に行って欲しい」等の感想が寄せられた。第2回「インテリアCADの現状をリサーチする・その2」

日時(7月頃)、場所(共立女子短大検討中)は未定であるが、①CAD部会と東京理科大学で実施した「インテリア業界のCADの現状調査結果」②「CADソフトの機能検証2」を予定(希望ソフト等あれば、ご連絡下さい)。

案内・参加を希望される方は、下記へ登録して下さい。
kawa@toyoko.ac.jp Fax:-03-3702-0536 川島平七郎

①インテリアCAD資格制度についての報告

■事務局より

1) 会費納入のお願い

この件で何度かお願いをしておりますが、年度末を迎え銀行通帳、郵便振替通知表を精査しています。その結果、3月末で会員の約10%の方が未納です。予算の無駄を省き、会員皆様が公平にサービスを受けられますようご協力くださるようお願いいたします。

2) 会員異動について

①入退会者：4月22日第三回理事会を予定しており、ここで承認された分は総会にてご報告の予定です。入退

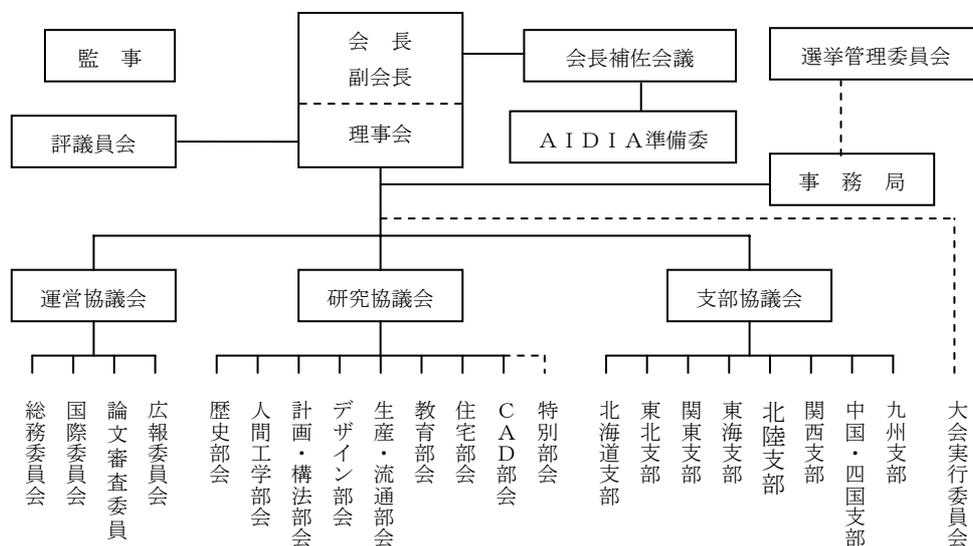
会等異動予定の会員は22日までに当方までご一報ください。

②住所変更：若宮直行〔新住所〕〒106-0032東京都港区六本木7-18-5

③会員異動：坂本久子〔新住所〕〒812-0053福岡市東区箱崎5-11-6-210, 勤務先名変更：近畿大学短期大学生生活福祉情報科。

④勤務先名変更：北浦かほる〔異動先〕帝塚山大学住居空間デザイン学科（旧：大阪市立大学），Tel/Fax：0742-41-4773。

3) JASIS 組織図



4) 役員・理事

会長	高橋 鷹志	理事	木村戦太郎 栗山 正也	理事	灰山 彰好 日原もとこ	支部長	小原 誠 (関東)
副会長	岡島 達雄 加藤 力 島崎 信		小西龍三郎 小原 二郎 小松 暁一 佐戸川 清		松本 直司 森保 洋之 湯本 長伯 若井 正一 渡辺 秀俊		小松 暁一 (北陸) 松本 直司 (東海) 北浦かほる (関西)
監事	大谷 文行 中村 圭介		沢田 知子 渋谷 邦男 清水 忠男 島崎 信		以上26名		灰山 彰好 (中国・四国) 小西龍三郎 (九州)
理事	上野 義雪 岡島 達雄 小原 誠 加藤 力 北浦かほる		高橋 鷹志 内藤 昌 直井 英雄 西出 和彦	支部長	渋谷 邦男 (北海道) 日原もとこ (東北)		

■編集後記

本年度の年報となる第31号です。原稿の依頼が何かと忙しい時期である年度末にお願いし、さらに十分な執筆時間もなく、大変失礼いたしました。しかし、ご多忙中にもかかわらず、多くの方から原稿をいただきました。御礼申し上げます。会報の編集内容についても新たな方向性を検討する必要性を感じております。会員の皆様からのご提案をお待ちしております。

(白石光昭)

■事務局

日本インテリア学会事務局（千葉分室）

事務局長 藤城 幹夫

〒262-0045 千葉市花見川区作新台2-23-11

FAX : 043-286-7456

■日本インテリア学会会報第31号（2004. 4. 20発行）

編集者：湯本長伯、白石光昭

発行者：高橋鷹志（日本インテリア学会会長）

広報委員会：湯本長伯、小林輝邇、藤城幹夫、

白石光昭、渡辺秀俊